

働き方改革を推進するにあたり、**管理職の役割**は極めて重要です。
 富田中学校では、松尾真千子 校長先生と教職員とで、『**子供も、教職員も、みんなが「幸せ（ウェルビーイング）」になれる学校づくり**』にチャレンジしています。

ホワイトボード・ミーティング®の詳細については、こちらのHPをご覧ください。



ファシリテーションで「エンパワメント富中」!

教職員間のチームワーク向上と信頼関係づくりのためには、「**公平に意見を聞き合える場**」と、「**安心して話せる（「困った」という声を上げやすい）環境**」が必要であると考えています。そこで、校務分掌として「**ファシリテーション推進部**」を立ち上げ、「**ホワイトボード・ミーティング®**」の活用を推進してきました。
 「話を聞きながらホワイトボードに書く」ことによって、**意見を可視化**でき、**課題解決の糸口も見つけやす**くなります。繰り返し練習することで、**子供も、教職員も、ファシリテーター**となり、**心の体力を温め合える「エンパワメントな学校」**を目指しています。



「学びやすさ」と「働きやすさ」の実現を

1日6時間の授業に加え、部活動をしたあとは、**子供も教職員も、ぐったり**しています。加えて、本校には、**子育て世代の先生が多い**ということもあり、「**簡易清掃の回数を増やす**」ことで**下校時刻を早めたり**、**職員の休憩時間の運用を工夫し、勤務終了時間を早め、「帰りやすい」時間設定**にしたりする取組も行っています。

ファシリテーション推進部



令和5年度4月ファシリテーションの研修会

新卒の先生2人を迎えて、みんなでお話をスタート

ファシリテーション推進部は学年に1名以上の構成で4人。令和5年度は「質問の技カード」でのペアトークを各学年で推進。授業における対話的な活動の計画や推進を担っていく。

教職員への『Well-being だより』

「**ポジティブな言葉選び**」と「**愛のあるフィードバック**」を心がけています。



Well-beingだより③ R5.11.27

162のWell-beingな職員室

※「162」1つ1つの願いを大事にしていきましょう。
 ※大切な意見を大きく3つに分類→今日から自分がやること1つ

【今日からみんなで実践しましょう！達成率100%をめざします】

- 1 気持ちのよいあいさつができる
- 2 分からないことなど気軽にすぐに質問できる空気感がある職員室
- 3 困ったことを話しやすい
- 4 笑顔があり、笑い声がある

先生の声

本校では、「**働き方改革が進んでいる**」と感じています。管理職が職員の「**声**」を拾い、**様々な業務改善を進めて**くださっているからです。「**子供も、教職員もウェルビーイングを**」という声かけにも、**毎日、勇気づけ**られています。



～教員勤務実態調査（令和4年度）の分析結果より～

- 管理職がリーダーシップを発揮し働き方改革を進めていると認識している教諭ほど、時間管理意識が高い。**
- 管理職がリーダーシップを発揮し働き方改革を進めており、かつ自身の時間管理意識が高まったと考える教諭は相対的に心理的ストレスの状況が良い。**